学校番号	3032

令和５年度　公民科

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校改訂版「政治・経済」　（第一学習社）						
副教材等	最新政治経済資料集　（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

社会を良くするためにはどうしたらいいか。できるだけ多くの人が幸せに暮らせる社会を実現するにはどうしたらいいか。常にそうしたことを念頭に学習に取り組んでほしい。そのためには、教科書にある基礎的事項を理解するだけではなく、新聞やニュースにも関心を寄せ、「世間という書物」からも学んでほしい。現実は最良の教科書である。

２　学習の到達目標

民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治、経済、国際関係などについて、広い視野に立って客観的に分析できる力を培うとともに、現実に起きている諸課題について主体的に考察し、良識ある公民として公正な判断ができる能力と態度を身につける。

３　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日々変化する政治、経済、国際関係の事象に対して関心を持ち、課題解決に向けて積極的に取り組んでいる。	社会を良くするためにはどのようにしたらいいか。政治、経済、国際関係の諸課題の中から課題を見出し、望ましい解決のあり方についてさまざまな立場から考察すし、それらを適切に表現する。	テレビ、新聞、書籍、インターネットなど、さまざまなメディアを通して資料を収集し、それらを適切に選択し、考察する。	政治、経済、国際関係に関するこれまでの学問体系の概念や理論を良く理解し、物事をその本質から理解する。
評価方法	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・時事問題への理解	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・時事問題に対して適切な判断ができているか。またそれを他人にわかりやすく説明できるか。	・時事問題に関する資料等の集め方が適切か。 ・集めたデータの読み取り方や処理方法が適切か。	・小テスト ・定期考査 ・時事問題に対する考察力
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめる。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。				

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期（4月～6月）	民主政治の基本原理と日本国憲法	①政治と法の機能 ②人権保障と法の支配 ③議会制民主主義と世界の政治体制 ④日本国憲法の基本原理 ⑤平和主義と自衛隊 ⑥基本的人権の保障と新しい人権 ⑦国会の組織と立法 ⑧内閣の機構と行政 ⑨裁判所の機能と司法制度 ⑩地方自治制度と住民の権利 ⑪政党政治と選挙制度 ⑫民主政治における世論の役割	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:私たちの日常生活が政治と密接に関係していることを理解し、基本的人権にかかわるニュースや、国会で話題になっていることなどについて関心を持っている。 b:日本国憲法下での立法、行政、司法、地方自治のあり方について、問題点も含め、幅広い視点から考察している。とくに、国際情勢の変化に伴う日本の安全保障問題や、新しい法律の制定二ついて、立憲主義の視点から考察している。 c:教科書に掲載している図版・写真の伝える意図を十分に理解し、活用している。 また、政治にかかわる題材を、新聞、書籍、インターネットなどのさまざまな情報手段を活用して調査している。 d:市民革命を経て自由権が確立し、その後資本主義の発展に伴って生じたさまざまな社会問題を解決するために、２０世紀になって社会権が確立した。その後、人権の国際化が進行している。こうした基本的人権を獲得する歴史的背景を理解している。 また、そうした人権保障を担保するために、日本国憲法ではどのような規定を設けているかを理解している。特に、国会、内閣、裁判所の関係とそれぞれの役割について正しく理解している。	授業態度 発問評価 小テスト 定期考査

前期（7月～9月）	第1編　現代の国際政治と日本	①国際社会と国際法 ②国際連合の組織と役割 ③国際政治の動向 ④国際紛争と難民問題 ⑤軍備管理と軍縮 ⑥日本の外交と国際平和への役割	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a:冷戦時代および冷戦後の国際政治について、どのような事件や紛争があったか、またその原因は何であったかを意欲的に理解し深める態度を身につける。さらに、現在、世界で起きているさまざまな出来事についても関心が高まっている。 b:イデオロギーの対立、領土問題、民族紛争、宗教対立など、世界にはさまざまな紛争が起きているが、それらの平和的解決に向けてどのような方法がありうるのかを広い視点に立って考察する。 c:教科書に掲載している図版・写真の伝える意図を十分に理解し、活用している。 また、国際政治にかかわる題材を、新聞、書籍、インターネットなどのさまざまな情報手段を活用して調査している。特に、国際政治については、地図帳を適切に利用し、問題が発生している地域を地政学的視点から考えてみることも重要である。 d:国際政治と国内政治の違いについて理解し、戦争防止のために人類はこれまで勢力均衡政策と集団安全保障という二つの方法を取ってきたことを理解する。特に、現代において国際連合が果たしている役割について確認すると同時に、国連の限界や問題点についても理解を深める。	授業態度 発問評価 小テスト 定期考査

後期（十月～十一月）	第2編　現代経済のしくみと特質	①経済社会の発展				○	a:三つの経済主体がどのように経済活動を営んでいるについて理解し、人々が幸せだと感じられる社会を実現するためにはどのような経済政策が望ましいかという視点に立って、財政、金融、労働、社会保障などの問題に深い関心を持つ態度を身につけている。 b:資本主義社会における競争の意味とその限界について理解し、政府が市場経済にどこまで介入すべきかと、いう視点から「大きな政府」「小さな政府」など、政府の経済政策のあり方について論理的に考察できる。 c:教科書に掲載している図版・写真の伝える意図を十分に理解し、活用している。 また、日本経済にかかわる題材を、新聞、書籍、インターネットなどのさまざまな情報手段を活用して調査している。 d:資本主義経済がどのように発展し、また発展に伴って生じたさまざまな弊害をどのように克服してきたか、その歴史的背景を理解し、さらに現代社会において、市場の果たしている役割を認識すると同時に、政府もまた市場の失敗を補うために大きな役割を果たしていることを理解する。とくに、景気変動、経済成長、物価の動きなどを政策目標として財政・金融政策が実施されていることを理解する。<br　一方、こうした基礎理論を理解したうえで、中小企業問題、農業問題、労働問題、社会保障問題、環境問題などの諸課題について広い視点に立って考察できる力を身につける。	授業態度 発問評価 小テスト 定期考査
		②経済主体と経済活動				○		
		③市場経済の機能と限界	○	○	○	○		
		④経済成長と景気変動	○	○	○	○		
		⑤物価の動き	○		○	○		
		⑥金融のしくみとはたらき	○	○	○	○		
		⑦財政のしくみとはたらき	○	○	○	○		
		⑧日本経済の歩み	○		○	○		
		⑨中小企業の地位と役割	○	○	○			
		⑩農業の現状と課題	○	○	○			
		⑪消費者問題	○	○	○			
		⑫高度情報社会の進展と課題	○		○			
		⑬労働問題	○	○	○	○		
		⑭社会保障の充実	○	○	○	○		
		⑮環境保全と資源・エネルギー問題	○		○			

後期（十二月～一月）	国民経済と国際経済　第3編　現代社会の諸課題	①国際経済のしくみ ②国際協調と国際経済機関の役割 ③地域的経済統合 ④グローバル化する経済 ⑤南北問題と日本の役割 ①少子高齢化と社会保障 ②地域社会の変貌と住民生活 ③雇用と労働をめぐる問題 ④産業構造の変化と中小企業 ⑤農業と食糧問題 ①地球環境と資源・エネルギー問題 ②国際経済格差の是正と国際協力 ③人種・民族問題と地域紛争 ④国際社会における日本の立場と役割	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ 	a:ヒト、モノ、カネの国際的な移動が、世界経済にどのような影響を与えているかについて関心を持ち、ＷＴＯの役割や円高・円安が私たちの日常生活に与える影響などについてさまざまな観点から理解しようとしている。 b:貿易政策は特に国益が対立しやすい分野である。特に世界恐慌後の保護主義的な貿易政策が第二次世界大戦の原因の一つになったことを踏まえ、今日起きている貿易問題について、貿易当事国がウィン・ウィンの関係を築くにはどうすればいいのかを経済理論にしたがって論理的に考える力を身につけている。 c:教科書に掲載している図版・写真の伝える意図を十分に理解し、活用している。 また、国際経済にかかわる題材を、新聞、書籍、インターネットなどのさまざまな情報手段を活用して調査している。 d:比較生産費説及び保護貿易といった貿易の基礎理論を理解し、さらに国際収支の見方や為替相場が国際経済に与える影響について理解を深める。特に最近注目されている地域的経済統合、自由貿易協定のメリット、デメリットについて幅広い視点から考察する力を身につけている。 また、政治と経済は密接な関係を持っており、日本が直面するさまざまな課題に対して、政治・経済両方の面から考察することを身につけている。	授業態度 発問評価 小テスト 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。